

最優秀賞（小学校3・4年生の部）

つらいだけじゃない！

（課題図書：ふしぎ町のふしぎレストラン）【感想文】

つくば市立東小学校 4年 <sup>ふじたに</sup>藤谷 <sup>みわ</sup>実和

この物語は、ふしぎな料理を作るふしぎレストランに客としてきたしんしが「世界一まずい料理」を注文するお話です。ライオンシェフが作った「世界一まずい料理」は、しんしがこどもの時、お母さんが作ってくれたくろこげのハンバーグでした。

このお話で私が一番好きな場面は、しんしがくろこげハンバーグを食べるところです。こどもの時は「まずい」とおこっていたのに、「たしかに世界一まずい料理だ。でもわしにとっては、世界一うれしい料理だ！」と、なみだをぼろぼろこぼして感動していたからです。

なぜ、こどもの時と気持ちが大きく変わったのか考えてみました。子どものころは自分の気持ちばかり考えていたので「まずい！」とおこってしまったのだと思います。でも、大人になったしんしは変わりました。くろこげのハンバーグは本当にまずいけれど、自分のためにがんばって作ってくれたお母さんの気持ちを考えられるようになったのだと思います。料理の味だけでなく、料理を作ってくれた人の気持ちまで考えられるようになったしんしはすごいと思います。

私にも、こどもの時のしんしのように、だれかの気持ちを考えることなく、「いやだいやだ」と自分の気持ちばかり考えていたことがあります。

私は今年の夏休み、お父さんといっしょに家から小田城あとまでおうふく約32キロメートルのサイクリングに行きました。とても暑い日で、日かげがない田んぼの道や上り坂もあり、自転車をこいでもこいでもなかなかゴールにたどり着きません。足はパンパンになり、本当につかれてしまいました。

（どうしてお父さんは私にこんな大変なことをさせるんだろう？）

と不満に思い、自転車がいやになってしまいました。

でもこの本を読んで、お父さんの気持ちを考えてみることができました。私の体を強くするためとか、私に色々なことをけいけんさせるためなど、私のためを思ってサイクリングに連れて行ったのかもしれない。本当につらくて大変だったけれど、お父さんの気持ちを考えると、少しだけうれしい気持ちにもなりました。

サイクリングの他にも、お父さんは山登りやスキーなど色々なことを私にさせます。もちろん楽しいこともあるけれど、とてもつかれることばかりなので、正直あまり好きではありません。けれども、いやだと思う自分の気持ちだけでなく、お父さんが私のためを思っている気持ちを考えて、できるだけ前向きに取り組んで行きたいと、この本を読んで思えるようになりました。